

「炎症性腸疾患における腸管 IgA 抗体の機能解析」 (25-182 IgAUC UMIN000024638)

潰瘍性大腸炎，クローン病，健常者

研究協力をお願い

当科では「炎症性腸疾患における腸管 IgA 抗体の機能解析」という研究を行います。この研究は、潰瘍性大腸炎、クローン病の臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：炎症性腸疾患における腸管 IgA 抗体の機能解析

研究期間： 2014 年 2 月 20 日～2021 年 3 月 31 日

実施責任者： 滋賀医科大学 消化器内科 安藤 朗

(2) 研究の意義、目的について

潰瘍性大腸炎の病気の原因のひとつに腸内細菌のバランスが崩れることがあげられており、ピオフィルミンやミヤ BM などの整腸剤の投与が治療のひとつとして重要な意味を持っています。最近の我々の報告では、遺伝的に腸内細菌に対して結合力の弱い免疫しか作れないマウスでは、腸内細菌が異常増殖して腸炎を起こすことがわかりました。このマウスに複数の腸内細菌に強く結合する IgA という抗体を経口投与すると腸炎は改善しました。このことは IgA という抗体の経口投与は、炎症性腸疾患の新規治療薬のひとつになる可能性があることを示しています。

本研究の目的は、健常者と潰瘍性大腸炎患者さんの便中 IgA 抗体と腸内細菌とがどれくらい結合しやすいかを検討し、そのなかで特に強く腸内細菌に結合する抗体の機能を解析することを目的としています。そのことにより、IgA という抗体の経口投与が炎症性腸疾患の新規治療薬になる可能性が証明できます。

(3) 研究の方法について

外来を受診していただいた時に、採便容器をお渡しします。次回受診日の当日に、自宅で添付のシートを使って採便してください。同じく添付してあるビニール袋に入れて外来へ持参していただき、主治医へお渡しください。

入院中の患者さんは、採便器をお渡ししますので、添付のシートを使って採便いただいた後、そのまま主治医か病棟の看護師に渡してください。

いただいた便からどのような腸内細菌がいるかを解析し、IgA という抗体を抽出させていただきます。それらの機能の解析は奈良先端科学技術大学院大学応用免疫学講座にて行います。

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7)問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 消化器内科 今枝 広丞

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2217

メールアドレス： imaeda@belle.shiga-med.ac.jp